

第39回日本外科學會ニ於ケル鳥潟會長ノ發言

淺野芳登 鬼束惇哉 石野琢二郎 記
吉岡忠夫 山田憲吾

緒 言

從來日本外科學會ヨリ發表セラレテ居ツタ總會記事ナルモノハ甚ダ簡ニ失シ居リシトコロ、今回鳥潟會長ノ發議ニ基キ、本年以後ハ詳細ナル總會記事ヲ日本外科學會雜誌ニテ公表スベキコトニ決定セリ(評議員會記事参照)。

故ニ其ノ報告記事ヲ讀メバ鳥潟會長ノ發言及ビ行動ガ明白ニ判明スル譯ナリ。併シソレニハ會員演說ノ内容モ發表サレテアル故、主トシテ鳥潟會長ノ發言ヤ行動ヲ知悉セント欲スル者ニ取リテハ詳細ニ失スルノ嫌アリ。

ソレ故ニ茲ニハ鳥潟會長ノ發言ヤ行動ヲ主要ノ對象ト爲シテ以テ學會ノ狀況ヲ髣髴トラシメント欲スル次第デアル。

學會第1日(4月2日、土曜日)午前

午前8時50分、鳥潟會長入場、會長席ニ着席、會衆約150名、演壇正面中央上方ノ壁ニハ高ク國旗ヲ掲揚シアリ。午前9時、會長自席ニ起立(拍手)。

開會ノ辭

會長 『ソレデハ開會致シマス。演說ヤ追加討論ハ成ル可ク無駄口ヲ言ハヌ様、簡潔ニ願ヒマス。第1番!』

1. 手術者手指瞬間消毒法竝ニ無火氣手術器械消毒法 榊原 亨(外1名)

會長 『只今ノ御研究ハ國家ノ現状ニ叶ツタ、注目スベキモノデアリマスカラ、會員諸氏モ毛嫌セズニ追試セラレテ、來年ノ外科學會ニハ澤山報告シテ頂キ度イト思ヒマス。』……拍手……

2. 呼吸機能ニ及ボス各種麻醉劑ノ影響ニ就テ 今津 九右衛門(外2名)

(演說中規定ノ時間超過セルヲ以テ、會長起立シ)

會長 『惜シイコトニ時間ガ過ギマシタ!』

麻醉劑デハ現今使ツテ居ルモノハ殆ド皆外國品デアリマシテ、日本デハ本間立調ノ『麻沸湯』以外ニ固有ノモノハアリマセン。今後日本固有ノ麻醉劑ヲ出ス様ニ會員諸氏ノ御努力ヲ願ヒマス。』……拍手……

3. 4. 5. 6番演了。

7. 骨折治癒ニ及ボス「ヒニン」及ビ其ノ誘導體ノ影響 飯田 清 二

追加1 中山 恒 明, 追加2 溝 口 清, 追加討論 村上 治 朗

(追加1ノ演者ト討論者村上治朗氏トノ間ニ數次意見ノ交換アリ、時間經過セルヲ以テ)

會長 『其ノ程度ニシテ後ハ明年ノ問題ニシマセウ。8番!』

8, 9番演了。

10. 失血救急ノ重點

木口直二(外1名)

會長 『失血救急ハ國家ノ現状ニ即シテ重大ナ問題ト考ヘラレマス。昨日ノ評議員會デモ此ノ問題ガ出タノデアリマス。ソウデアリマスカラ日本外科學會員諸氏ハ大急ギデ此ノ問題ヲ研究スル必要ガアリマス。來年ノ宿題ガ何ニナルカマダ決定シテ居リマセンガ、來年マデニ諸所方々デ充分ニ研究シテ頂キタイト思ヒマス。』

(失血ニ就テ竹内劔大佐ノ追加アリ)

會長 『竹内大佐ニ御禮ヲ申シマスガ、只今ハ吾々ニ非常ニ參考ニナル御話ヲ聞カセテ頂キマシテ有難ウ御座イマシタ。吾々日本外科學會員ハ此ノ際他ノ事ハ放ツテ置イテモ、此ノ方面ニ步調ヲ揃ヘテ研究スルコトガ大切デアルト思ヒマス。(竹内大佐ニ向ツテ)有難ウ御座イマシタ。』

(失血ニ就テ齋藤教授ノ追加アリ、規定ノ時間3分ヲ超過セルヲ以テ)

會長 『急ギマスカラ來年ノ學會ニマタユツクリト御願ヒ致シマス。』(齋藤教授尙ホ演說ヲ續ケントシタガ會長手ヲ以テ制止ス。)

11, 12番演了。

正午休憩

學會第1日(4月2日, 土曜日)午後

開會午後1時

會員入場者ハ午前中ニ於テ漸次其ノ數ヲ増シ、午後開會前ニハ既ニ500名ヲ超過ス。

會長 『開會致シマス。演題11ニ對スル追加ノ御申込ヲ誤ツテ見落シマシタカラ、茲デ御願致シマス。』

13. 黃色葡萄狀球菌ノ各種「ビタミン」缺乏造血臟器ニ及ボス影響ノ組織學的研究

第1報 骨髓

石崎芳郎

追加1 黃色葡萄狀球菌ノ各種「ビタミン」缺乏造血臟器ニ及ボス影響ノ組織學的研究

第2報 脾臟及ビ肝臟

石崎芳郎(外1名)

追加2 葡萄狀球菌「アナトキシン」及ビ同菌抗毒血清ニヨル該菌感染疾患ノ療法

小平正

會長 (追加2小平氏ニ對シ)

『外科學ニ於テハ細菌ト免疫トニ常ニ重大ナ交渉ガアリマスガ、ソレニモ拘ラズ我ガ日本外科學會ニ於テハ從來細菌、免疫ニ關係ノアル研究發表ハ大變少カツタノデアリマス。然ルニ近頃ニナツテボツボツ現ハレテ來タコトハ大ニ愉快ナコトデアリマス。只今「アナトキシン」ガ治療上ニ非常ニ效果ガアル様ニ申サレマシタ。是ハ甚ダ結構デアリマスガ、凡テ物ノ進歩ト言フモノハ他ノモノト比較スルト言フコトニアリマス。「アナトキシン」ハ只ダ單ニ「アナトキシン」トシテ見タノデハマダ初步デアツテ進歩トハ言ヘマセン。之ヲ他ノモノト比較スベキデアリマ

ス。『アナトキシシ』ト同等或ハソレ以上ニ效果アリト言ハレテ居ルモノ、例ヘバ『コクチゲン』ト比較シテ頂キタイデス。比較ト言フコトニヨツテ進歩ガアルノデアツテ、タダ自分ノ主張スルモノダケヲ言ツタノデハ進歩ニハナリマセン。明年以後ハ此ノ比較研究ノ發表ヲ御願スル次第デアリマス。』

18. 肺換氣量ト肺血行トノ關係 來 須 正 男(外2名)
追加 德 毛 卓 三, 質問 小 澤 凱 夫, 答辯 伊 達 登 紀 雄(18.ノ演者)
更ニ小澤教授ト伊達氏トノ間ニ數次質問, 應答アリ。

會長 『ソコ迄! 此ノ問題ハ明年ニ譲リマス。19番!』

19. 生體肺動脈攝影法及ビ其ノ臨床ノ應用 藤 野 重 雄(外2名)

會長 『次ニ宿題報告ニ移リマス迄5分間休憩致シマス。』(時ニ午後2時30分)

5 分 間 休 憩

宿題報告ノタメ再開(午後2時40分, 聴衆約800名)

會長 『ソレデハ宿題報告ヲオ願ヒ致シマス。時間ガ澤山アリマスカラ、ユツクリオ聴キ取リ願ヒマス。』

カクテ會長ハ會長席ヲ去リ降壇シ, 會員席ニ着キ聴取ス。

宿 題 報 告

肺 壞 疽

報告者 東京醫專 佐藤清一郎
篠井金吾

宿題報告終了(午後5時35分)

5時頃ニ會長ノ名ヲ以テ『宿題報告終了後ト雖、會長ガ散會ヲ宣セザル間ハ猥リニ退場スルコトヲ御遠慮下サイ』トノ揭示ガ出ル。

會長(登壇, 報告者佐藤教授ヲ壇上中央正面ニ位置セシメ, 會長席ヨリソレニ向ツテ起立ノ儘)挨拶 『佐藤教授ニ對シ御禮ヲ申シマス。非常ニ豊富ナル臨床經驗ト, 詳細ナル實驗的研究ト該博ナル智識ニ立脚シテ, 肺壞疽ノ詳シイオ話を聴カセ下サイマシテ有難クゴザイマシタ。殊ニオ話ガ有體デ, 時々中ニ面白イオ話モ混ゼラレマシテ, 却ツテ私ハ初メカラ終リマデ非常ニ面白ク, 且ツ印象深ク, 拜聴致シマシタ。聴衆諸君モサウデアラウト思ヒマス。私ハ此處ニ日本外科學會ノ名ニ於テ, 外科學會ヲ代表シテオ禮ヲ申述ベマス。』

聴衆諸君! 今私ガオ禮ヲ申シマシタノハ, 日本外科學會ノ名ニ於テ, 外科學會ヲ代表シテデアリマシテ, コレハ聴衆諸君ヲ代表シテオ禮ヲ申述ベタノデアリマセン。ソウデアリマスカラ, 此ノ會場ニ居ラレル聴衆諸君ハ, 何等カノ方法デ報告者ニ向ツテ敬謝ノ意ヲ表スルコトガ必要デナイデセウカ。私ハオ話を聴イテ居ル終リ頃カラ, 此ノ方法ヲ考ヘテ居ツタノデアリマスガ(前記會長名義ノ揭示参照), 私ノ考ヘツイタコトハ『聴衆諸君ガ外科學會々々ニデアルト否トニ關ラズ, 其ノ席ニ起立シテ報告者ニ對シ誠意ヲ以テ敬禮ヲスル』ト言フコトデアリマス。

聽衆諸君！ 御同感ナラバ早速御實行下サイ。』

滿場起立，敬禮（次デ拍手）。（註。コレハ宿題報告者=對スル禮儀=シテ，報告ノ内容ヲ學術的=認メルト否ト=ハ全ク無關係ナルモノナリ。）

會長 『本日ハ之ヲ以テ終了ト致シマス。』時=午後6時。

學會第2日（4月3日，日曜日）午前

開會午前9時 會員入場數約100名。

會長 『開會致シマス。20番！』

20, 21及ビ22番演了。

會長 『御發言？，ゴザイマセンケレバ23番！』

23. 胃，十二指腸潰瘍ノ成因=關スル炎衝ノ意義 友田 正 信

追加 三宅 博，質問 東 陽 一，答辯 友田 正 信

會長 『友田助教授ノ所見ハ注目=價スルモノト思ヒマス。丁度痔瘻ガ最初カラ痔瘻トシテ表面カラ發生シテ深部ヘ移行スルモノデハナク，最初深部=變化ガアリ，ソレガ進行シテ痔瘻=ナルト言フ考ヘガアリマスガ（Fistula ani interstitialis，日本外科寶函，昭和12年7月1日發行，第899頁參照），胃=於テモカ、ル考ヘガ適當ト思ハレマスカラ，各方面ノ追試ヲ希望致シマス。御發言他=ゴザイマセンケレバ24番！』

24. 胃及ビ十二指腸再手術例ノ検討 勝 屋 弘 辰

討論 友田 正 信，答辯及ビ討論 勝 屋 弘 辰

會長 『意見ノ對立ハ男性的デアリマシテ，洵=結構デアリマス。又タカクスルコト=依ツテ學問ノ進歩ヲ來ス所以デアリマシテ，大イ=歡迎スル所デアリマス。ソレデアリマスカラ，明年モ，明後年モ，ソノ次モ，ソノ次モ，今回ノ様=シツカリシタ論争ヲ續ケテ行ク様=希望致シマス。他=ゴザイマセンケレバ……25番！』

25, 26番演了。

27. 脾臟部分切除ヲ兼スル胃癌胃切除ノ術式並=適應=就テ 久 留 勝

追加 中 田 瑞 穂

會長 『只今ノハ『手術々式=就テ』ノオ説デアリマスカラ，演說ソノモノ=對シテ言フノデハナク，只ダ一般的=申スノデアリマス。癌ヲ切り取ツテ，『癌ヲ治シタ』トイフ考ヲ，若イ者ハ持チ易イノデアリマスガ，カ、ルコトデ『癌ガ治ツタ』ノデハナイ。癌ヲ有シテキル患者ヲ癌ヨリ救ツタト言フガデアリマス。之レヲ以テ外科醫ガ能事終レリトシテハナリマセン。癌ガ全身性ノ變化ノ局所性ノ發現デアルカラ=ハ，癌ヲ切り取ルダケデナク，本當ノ意味=於テ癌ヲ治スコトヲ會員諸君ハ努力スベキデアリマス。日本外科学會員中ヨリ本當ノ意味デノ癌治療法ヲ創始スル人ガ出ルコトヲ希望致シマス。』

28番演了。

29. 松果腺腫瘍 (Pinealoma) ノ外科

中 田 瑞 穂(外1人)

(中田教授ハ幻燈説明ニ先チ、材料豊富ナルモ、時間ガ短キヲ以テ、時間ノ有ル限リノ範圍ニ於テ説明セントスト述べ、説明ガ終リニ近ヅキタリト思ハレル頃)

會長 『3分間延長致シマシタカラ、引續キモツトオ願ヒ致シマス。』

中田氏 『モウオ終ヒデス。』

會長 (會衆ニ向ヒ) 『内容ガ面白イノデ、モツト澤山オ聴キシタカツタノデ、3分間時間ヲ延長致シマシタノニ、惜シイコトニ、モウオ終ヒダソウデアリマス。』

30, 31, 32, 33番演了, 時ニ午前11時55分。午前ノ部終了。

正 午 休 憩

(此ノ休憩時間, 食事中ニ明年ノ宿題及ビ特別講演決定セラル。評議員會記事附記参照)

學會第2日(4月3日, 日曜日)午後

開會午後1時 聴衆約350名(逐時増加ス)。

會長 『開會致シマス。34番!』

34, 35, 36番演了。37番演說中,

ケーファー (Käfer) 氏一行來場

午後1時35分(演題37ノ演說ガ將ニ終ラントスル時), 獨乙陸軍々醫中將ケーファー氏ハ隨員4名ヲ從ヘ陸軍々醫中將小泉親彦氏及ビ名譽會員鹽田廣重氏ノ先導ニテ後方入口ヨリ靜カニ入場,ケーファー氏1人ハ最前列ノ席ヘ, 隨員4名ハ其ノ後方ノ會員席ヘ着席ス。(此ノ間ニ演題37ノ演說終了)

會長 『演題38番ヲ少シ待ツテ戴キマシテ, 只今吾ガ日本醫學會ヘ招待サレマシタ獨乙ノ陸軍々醫中將ケーファー氏ガ見エラレマシタカラ御紹介致シマス。シカシ私自身モ始メテデアリマスノデ, 先ヅ私ガ壇上デケ氏ニ紹介サレタ上デ挨拶シマシテ, ソノ次ニ私カラケ氏ヲ會員諸君ニ御紹介致シマスカラ, 其ノ時ハ歡迎ノ意味デ拍手ヲ願ヒマス。萬事只今申上ゲタ順序デ之レヲ行ヒマスカラ豫メ左様御承知ヲ願ヒマス。』此時,

ケーファー氏小泉氏ニ伴ハレテ登壇, 小泉氏ヨリ會長ニ紹介,ケーファー氏ト會長トノ間ニ握手。

會長 (會員席ニ向ツテ紹介) 『ケーファー中將』

滿場ノ會員一齊ニ拍手,ケーファー氏(會衆ニ向ツテ)「ナチス」式ノ敬禮ヲナス。

會長 (壇上ニテケーファー氏ニ向ヒ)

Seien Sie recht herzlich von uns willkommen, Herr General!

ケーファー氏 (會長ニ向ヒ)

Besten Dank, Herr President!

再ビ握手ノ後、ケーファア氏降壇、自席ニ歸ヘル。斯クテ再ビ演説ハ38ヨリ始メラレ、ケーファア氏等一行ハ熱心ニ耳ヲ傾ケ聽キ入ル。

38, 39, 40番演了。

午後2時、會長、幹事ヲシテ紙片ヲケーファア氏ヘ傳達セシム。紙片ニハ次ノ如キ會長ノ手記アリ。

Bald kommt ein grösserer Vortrag von Prof. Ishiyama über Lungenkollapsus.

Wenn Sie sich dafür interessieren, so bitte ich Sie noch eine Stunde zu gedulden oder um 3 Uhr wieder zu erscheinen.

Ihr ergebenster

R. Torikata.

ケーファア氏ハ之ヲ讀ミツ、會長ニ對シ「ツコリ」トシキリニウナヅク。斯クテ尙ホ熱心ニ演説ニ耳ヲ傾クコト暫シ。午後2時10分、自ラ會長席ニ近寄りテ會長ニ向ツテ『後ホド又タ參リマス。』ト囁キ自席ニ戻リ、間モナク一行ヲ伴ヒテ退場ス。此際會長ハ自席ヨリ右手ヲ振リテ挨拶ス。

41, 42番演了。

總會庶務會計報告及ビ議事

42演説終了後引續キ總會ノ議事及ビ報告ニ入ル（日本外科學會總會庶務會計報告及ビ決定事項參照）。

午後2時50分、總會庶務會計報告及ビ議事ヲ終ル。

宿題報告ノ準備ノタメ15分間休憩。

宿題報告

急性肺虚脱

報告者 岡山醫大 石山福二郎

開始 午後3時5分。聴衆 約800名。——逐時増加。終了 午後5時20分。（午後4時半頃『報告終了後ト雖、會長ガ散會ヲ宣言セザル以前ニ於テ猥リニ退場スルコトヲ御遠慮下サイ。會長』ノ揭示出ツ。）

會長ノ挨拶 『肺虚脱ニ就テ非常ニ廣汎ナル研究ノ結果ヲ長時間ニ互リオ聽カセ下サイマシテ、我々ハ非常ニ感銘致シマシタ。コヽニ私ハ外科學會ヲ代表シテ報告者ニ厚クオ禮ヲ申シマス。

次ニ私ノ感想ヲ少シバカリ述べサセテ頂キマス。ソレガ又タ私トシテノオ禮ヲ述べルコトニモナリマス。

『肺虚脱ト言フモノガアルゾ』ト言フコトヲ始メテ日本醫學界ニ注意ヲ與ヘラレタノハ我ガ石山教授デアリマシテ、私ハ不斷カラ敬服シテ居タノデアリマスガ、今回ハ廣汎ナル報告デ、之レヲ拜聽スルト隨所ニ自家ノ獨創、固有ノ見解、獨創的ノ器具ヲ案出セラレ、ソノ内容ハ頗ル

豊富デ特色アルモノト思ヒマス。

醫學研究ノ最終ノ目的ハ診斷、治療、豫防ノ3ツニ過ギナイ。石山博士ハ此ノ3ツニ就テ詳細シク述ベラレマシタ。アレ程詳細シク教ヘラレテ、今後我々ハ『肺虚脱』ヲ見逃スコトハアルマイト思ヒマス。若シ見逃スコトガアレバ、之レハ石山教授ノ罪デハナクテ我々外科學會々員ノ罪デアツテ、皆ガボンヤリシテオルカラデアリマス。

『肺虚脱』ハ急ナルモノデアリマスカラ、熱心ニ研究サレテ居ル石山教授ノ所ヘ一々患者ヲ送り届ケルコトハ出来マセンカラ、吾々各自ガ熱心ニ治療ニ從ハネバナリマセン。カ、ル研究ハ石山教授一人ノミニ放任セズ、我々一同ガ石山教授ヲ助ケテ、各所デ熱心、眞面目ナ研究ヲ爲スベキデアルト思ヒマス。

私ハ會員ヲ zwingen (強要) スル意志ハ持ツテ居リマセンガ、カクノ如キ熱心ナル研究者ニドウシテモ起立シテ敬禮シテ、敬謝ノ意ヲ表シタイノデアリマス。御同感ノ方ハ御實行下サイ。』(一同起立、敬禮、次デ拍手) (註。コレハ會員ヲ驅リテ報告ノ内容ヲ學術的ニ承認セシメルトカ、セシメヌトカノ問題トハ全然別個ノ事項デアル。コレハ宿題報告者ニ對スル學會禮法ノ1ツノ模範デアル)。

會長 『之レデ本日ノ演説ハ總テ終リマシタ。』 散會 (時ニ午後5時25分)。

學會第3日(4月4日、月曜日)午前

開會 午前9時

43. 演了。

44. 蟲様突起炎成因トシテノ Schwartzman 氏現象 渡邊治生(外1人)

會長 『Schwartzman 氏現象ハ要スルニ Allergie 又ハ Anaphylaxie ニヨリテ起ルモノデアリマシテ、『抗元ト抗体トガ結合シタ』ト言フダケデハ説明ガツカナイ。ソノ他ニ補體ノ存在ヲ必要トシマス。普通ハ體內デ抗体ト抗元トノ結合ニヨリテ補體ガ墜落シマス。之ヲ Komplementsturz ト申シマスガ、カ、ル Komplementsturz ノ起リ難イ個體ニ Schwartzman 氏現象ガ起リ易イノデアツテ、最モ起リ易イ動物ハ「モルモツト」デ、次ハ家兎デアリマス。家兎ニハ凡テニ發現スルモノデアリマセン。故ニ此ノ現象ヲ説明セントスル場合ハ血中ノ補體含量ニ就テモ追究、説明シナケレバナリマセン。演者ノ場合ハ補體ニ就テ何等觸レテ居ラレマセンガ、今後ハ補體トノ關係ヲ追究サレテ來年デモ再來年デモ御報告アリタイト思ヒマス。』

45. 演了。

46. 「イレウス」知見補遺 三羽兼義(外3名)

會長 『三羽博士ガ開業ノ餘暇ヲ利用サレテ、年來「イレウス」ニ關シテ色々ト熱心ニ研究サレ、今回ハマタ甚ダ有益ナル(注目ニ値スル)研究ヲ發表サレタコトハ、私ノ敬服スル所デアリマス。三羽博士ノ研究ガ段々進ンデ、醫學最終ノ目的タル診斷、治療、豫防ノ範圍ニ迄及バレ

シトヲ希望シマス。』(學會第2日肺虚脱症題報告ノ謝辭ニ於テモ會長ハ醫學最終ノ目的ニ言及セリ。)

47ヨリ54番マデ演了。

(54ノ追加2ニテ中田教授ガ追加討論者席ニ豫メ着席シ居ラズシテ、遠ク離レタル自席ヨリソロソロ壇壇ニ上リ來ル迄ニ多少時間ヲ要シタルヲ以テ)

會長 『追加討論ヲオ申シ込ミノ方ハ必ず前以テ指定席ニ着イテ居ツテ頂キタイデス。1分1秒ヲ惜シンデ居ル際デアリマスカラ、今後ノ爲ニ申シ上ゲテ置キマス。』

55, 56番演了後、

會長 (全員ガ退場セントスルヲ制シ) 『一寸オ待テ下サイ! 昨日ノ總會議事ノ追加ガアリマスカラ申上ゲマス。常任幹事ハ評議員中ニ姓名ヲ列シナイコトニナリマシカラ御承知下サイ。午前ノ演説ハコレデ終リマシタ。』(時ニ午前11時45分)

正午休憩

學會第3日(4月4日、月曜日)午後

午後1時開會

57. 演了。

58. 腎及ビ胸膜ニ於ケル Locus minoris resistentiae ノ研究 富永貢

追加 L.m.r. ノ感染防止ニ關スル各種細胞賦活劑ノ比較研究 野平藤雄

會長 『昨日モ申シタ通り敢テ學術ノミニ限ラズ、凡テ物事ノ進歩ハ『比較研究』ニヨツテ始メテ達セラレマス。何等ノ比較ナシニ自分自身ノミヲ主張スルダケデハ進歩ニナリマセン。國家ノ進運ニ際シ國民的自覺ノ大切ナル時ニ當リ、吾々ノ研究結果ニ對シ從來學界ノトツタ態度ハドンナ態度デアツタカ。『コレハ一體ドコノ國ノ學會デアルカ?』ト反問セネバナラス位ノモデアリマシタ。

諸君! 國家的、國民的意識ヲ明瞭ニシテ國產——ソレハ必ずシモ品物ニハ限ラナイ(國產ノ學說モアル)ガ——國產ヲ獎勵スル意味ニ於テ、充分追試研究セラレンコトヲ希望シマス。他ニ御發言? ゴザイマセンケレバ會長演説ニ移リマス。』

會長演説

全身ノ抵抗カト皮膚トノ關係 (コレハ日本外科學會雜誌ニ公表セラルベシ)

59. 心臓ヘルニアヲ伴フ外傷性横隔膜ヘルニアノ治驗例 岩崎吉次

追加 胸部大網膜移植術ニ就テ 榊原亨

以上ハ平壓開胸術ヲ利用シタルモノナルガ、會長起立、下ノ發言ヲ爲セリ。

會長 『私ハ會長ノ地位ヲ離レテ會員トシテ聊カ述ベサセテ頂キマス。

昨年ノ本會ニ於テ、平壓開胸トイフコトニ關シテ、大阪ノ小澤教授ガ鳥瀉ノ説ニ全幅的ニ贊

成スルト言ハレタノニ對シ、後藤教授ガ起立發言サレテ、之ハ鳥潟ガ創メタノデハナイ、佛國ノ外科學者ガ既ニヤツテ居ル。文獻ヲ知ラナケレバ借シテヤルト小澤氏ニ言ハレタ。ソレデ私ガ先ヅ其ノ文獻ヲ拜借シマシタ。之ハ Pierre Duval 著、R. Grégoire et A. Courcoux 著及ビ、Moynihan 著ノ3部デ、何レモ1917年ニ出タ小冊子デアリマス。Duval ノ論文ハ1922年5月ノ Presse médicale ニモ載ツテ居リ、自分ハ知ツテ居リ、1925年ノ教室ノ(工藤八郎)論文中ニモ掲ゲデアリマス。今度拜借シタ書物ニモ、其ノ84頁ニ於テ、次ノ記載ガアリマス。„ Ces methodes (複數デアリマス。過壓裝置モ陰壓裝置モ)、 sont physiquement rationnelles……併シ bien peu pratiques “トアリマス。即チ過壓裝置デモ減壓裝置デモ、合理的デアルガ、戰場ナドデハ不便デ實用價值ハ少イト申シテ居ルノデアリマシテ、『異壓裝置、殊ニ過壓裝置ヲ行ツテハナラヌ、ソレハ有害テアル』トイフ主張ハシテ居ラスノデアリマス。他ノ2冊ノ文獻ニ至リテハ一向ツマラスモノデアリマス。

私共ハ佛國外科ガ言フガ如ク『過壓ハ合理的デアルガ、實用上不便テアルノデ、過壓ガ無クテモ開胸出來ル』ト言フノデハナイ。我々ハ『過壓裝置ハ無用有害デアル。カハル有害ナルモノハ使ツテハイケナイ』ト主張シテ居ルノデアリマシテ、此ノ主張ハ世界中京大外科以外ニハ何處ニモ無イノデアリマス。此間ノ差別ヲ辨ヘナイデ、佛國デハ京都外科以前ニ既ニ異壓裝置無クシテ開胸シテ居ルカラ京都外科ノ主張ハ佛國學派ノ後塵ヲ拜スルモノデアルカノ如ク述ベタ後藤教授ノ論述ハ當ラナイノデアリマス。

當時佐藤清一郎教授ガ發言シテ、『過壓ナシデ自分モ以前ニ手術ヲヤツタ』ト述ベテ、京大ノ主張以前ニ平壓開胸ヲ行ツタトノ意味ヲ附加サレマシタガ併シコレハ平壓開胸術デハナイ。之レハ『過壓裝置ハ無効且ツ有害デアル』ト言フ京大外科ノ如キ主張ヤ自覺ガアツテヤツタノデハナイ。即チ決シテ平壓開胸術ヲ行ツタト申スベキモノデハナイ。佐藤教授ハ1925年ノ本會席上デモ同様ノコトヲ述ベラレマシタ。其ノ當時ハ Sauerbruch ノ過壓裝置ガ世界ヲ風靡シテキタ時代デアリマスカラ、モシモ佐藤教授ガ今日京大外科ノ主張スルガ如ク『過壓開胸ハ無用ニシテ且ツ有害ナリ』トイフ學術的信念カラ、其ノ當時既ニ過壓無シデ開胸シタト申サレルナラバ、當時ニ於テ其ノ主張ヲ學會ニ發表スベキデアリマス。併シ其ノ如キ發表ハアリマセン。即チ、佐藤教授ノ行ツタノハ何等學術的主張ガアツテノコトデハ無クシテ、申サバ無意識的ニ偶然行ツタト申ス迄ノコトデアリマス。佐藤教授ノハ『自分モ林檎ノ落チルヲ見タ』ト言フノト同ジデアリマス。京大外科ノ如キ學術的主張アリテノコトデハアリマセン。

後藤教授ニオ願ヒスルノハ、京大外科ニ於ケル平壓開胸術ノ主張ハ佛國其他ノ如クニ『平壓デモ開胸ガ出來ル』ト申スノデハ無クシテ、『過壓ハ無用デ且ツ有害デアル、平壓デナケレバナラヌ』ト主張スル次第デアツテ、此ノ主張ハ世界中京大外科ダケデアツテ、ソレ以外ニハ何國ノ學者モソノ様ナ主張ヲシテ居ラヌト言フコトヲ認識シテ頂キタイノデアリマス。』(註。主張ニ對スル學術的贊意ヲ求メルノデハナイ。京大外科ノ主張スル平壓開胸術ハ佛國外科ノ考ヘ方

ト内容の=異リ居リ、京大外科ハ世界外科學界ニ向ツテ全ク獨自ノ主張ヲシテキルモノデアルトイフ點ノ認識ヲ求メルノデアル。京大外科ノ1925年以來ノ主張ハ佛國學者ノソレ以前カラノ發表ト何等差別ガ無キモノナルカノ如キ後藤教授ノ考ヘ方ヲ是正スルコトヲ後藤教授ニ要求スルノデアル。

後藤教授 『私ハ昨年ノ本會ニ於テハ平壓開胸術ガ數千例ニ於テ大戰當時ニ行ハレタルコトニツキ文獻ヲ紹介シタノデアリマス。而シテ1917年ノ Pierre Duval 氏ノ著書ノ中ニハ結論トシテ『……一言以テ之ヲ言ヘバ一般外科的ノ手技ガ肺ニモソノマ、完全ニ行ハレルモノデアル……』ト申シテ居マス。又1918年發行セラレタル Abstracts of war surgery ニ於テハ次ノ通りノ結論ガ肺ノ外科ニツキテ書イテアリマス。

…… Among other things, it has been shown, that the fear of pneumothorax during operation is unfounded and that without any particular danger, one may perform a large thoracotomy or eventrate the lung, lobe by lobe, just as one does loops of intestines, palpate, incise, resect and then replace it in the thorax. The lung is not redoutable organ that it was before the war……トアリマシテ肺ノ手術ニ當リ特別ノ裝置ヤ手技ハ要セヌト言フ結論ニナツテ居リマス。

之ヲ歴史的ニ調ベテ見マスレバ佛學派ハ古クヨリ主トシテ平壓開胸ヲ主張シテ兩側ノ平壓開胸ヲ行フモ必ズシモ常ニ死亡スルモノデナイコトモ記載サレテ居マス。獨乙學派ハ氣壓差異裝置ヲ使用スルコトヲ主張シテ居リマス。

鳥瀉教授ノ教室ヨリ發表セラレタル先年ノ業績ニツキテハ當時何等異論ヲ申センコトナク之ヲ承認シテ居マス。本邦ニ於テハ主トシテ獨逸學派ノ文獻ガ讀マレテ居マスカラ余ハ佛國方面ノ平壓開胸ノ文獻ヲ紹介セシ次第デアリマス。』

會長 『只今ノオ話シニ對シテ私ハ申シマスガ、京大外科ノ主張ハ『平壓開胸術デモデキル』トイフノデハナクシテ『平壓開胸デナケレバナラヌ、過壓開胸ハ有害デアル』トイフノデアリマス。此點(日佛主張ノ相違)ヲオ認メ下サイマスカ?』

後藤教授 (低聲デ) 『認メマス。』

會長 (大イニ意氣込ンデ) 『有難フ。』(拍手)

後藤教授 『平壓ノ方ガ良イト言フコトハ、獨逸デモ認メテ居リマス。亞米利加デモ亦タ認メテ居リマス。過壓ガ惡イト言フコトハ鳥瀉教授教室カラノ論文ヲ觀テカラニシマス。』

會長 『平壓開胸ノ方ガ良イトイツテキルト言フダケデハ足ラナイノデアツテ、過壓裝置ガイケナイ(不可)ト主張シテキルノデアル。其ノ點ニ就テ……。

モウ1ツ疑問トスル處ハ昨年ノ本會デ、『軍醫學校デ異壓裝置ナジニ犬ノ肺切除ヲ行ツタ』ト述ベラレマシタガ、ドウシテ犬ヲ使ハレマシタカ。』

後藤教授 『エツ……』(聞キ返ス)。

會長 (質問ヲ繰返ス)

後藤教授 『犬ハ Mediastinum ガ弱クテ手術ガ一番ムツカシイ。兎デハ Mediastinum ノ強サハ人ト犬ノ間位デアル。私ハ獨逸學派ノ學問ヲシテキタノデ學生諸君ニ Demonstration ノ意味デヤツタノデアリマス。』

會長 『犬デヤラレタノハソウイウ意味ナラバ分リマスガ、若イ士官達ニ見セルニハ、犬ヲ撰ンダト言フコトハ贊成出來マセン。後デ伺ツタ所ニ依ルト、確カ其ノ犬ハ10日位デ出血デ死ンダソウデアリマスガ、犬デハ中々成績ハ得ラレマセン。平壓開胸デアルノハ犬デハ不適當デアリマス。ソレハ犬ハ縱隔竇ガ弱イ許リデナク、時ニハ左右ノ胸腔ガ交通シテキル様ナモノガアリマス。過壓裝置無シノ實驗ニハ犬ハ全く良クナイノデアリマスガ、只今述ベラレタ様ナ御積リデアレバ良ク分リマシタ。』

獨乙學派デハ從來主トシテ犬ニ依ル實驗結果ニ從ツタ關係ニ異壓裝置ガ必要ナリトノ主張ニナツテ居ツタモノデアリマス。兎トカモウ少シ大キケレバ牛トカラ實驗ニ使ツテ居ツタナラバ過壓裝置ヲ主張セズニスンダモノト考ヘラレマス。犬トカ馬トカハ此種ノ實驗ニハ避クベキ筋ノモノデアリマス。私ハ昨年ノ學會デ後藤教授ノ申サレタ時ノ其ノ當時ノ感想ヲ只今述ベタダケデアリマス。』

後藤教授 『私が軍醫學校ニテ犬ヲ實驗動物トシテ肺切除ノ手術ヲ行フコトガ必ズシモ適當ナラザルコトハ承知シテ居マスガ、人ノ材料ヲ得ルコトガ出來ナカツタノデアリマスカラ、學生ノノ他ニ示ス爲メニ犬ヲ用ヒテヤリマシタ。』

大正8年私ガ九州大學ニ赴任シテ間モナク胸部ノ開放性切創ノ患者ガ入院シマシタガ、當時余等ハ平壓ノ下ニ處置シテ之ヲ縫合閉鎖シマシタ經驗ガアリマス。之ハ珍シイ事實デモナイノデ發表モシテ居リマセン。獨乙學派ガ新シイコトノ様ニ言ツテ居ルガ、既ニ澤山ヤラレテ居ルト言フコトヲ言ツタダケデアリマス。京大外科カラノ發表モ詳シク讀ンデ知ツテ居ルノデアリマシテ、私ハソウ申シ込ダ筈デスガ、ドウデスカ?』(……拍手……會場騒然)

會長 『只今ノオ話デハ京大外科カラノ發表ヲ既ニ精讀サレヨク知ツテ居ルトノコトデアリマスガ、シカシ先刻ノ御話デハ『過壓ノ裝置有害』ノ主張ヲシテ居ルカ否カノ點ヲ認メルコトニ關シテハ京大外科教室カラノ論文ヲ讀ンダ上デ返答ヲスルトノコトデアリマスガ、何レガ眞實デアリマスカ。『過壓裝置ガ不可ナイ』ト京大外科ガ主張シテキルノデアルトイフコトヲ承認サレマスカ?』

後藤教授 『實驗的研究ハ認メマス。』

會長 (再ビ) 『『過壓裝置ガ不可ナイ』ト主張シテキルノデアルト言フコトヲオ認メニナリマスカ?』

後藤教授 (小聲デ) 『其レハ認メマス。』

會長 (意氣込ンデ) 『有難フ』(更ニ語ヲ次ギ、會衆ニ向ヒ)

『諸君! 過壓裝置ハ獨乙ノ年來ノ主張デアリマシテ、Sauerbruch モ生存シテキル今日一朝

一タデソレヲ放棄スルトハ考ヘラレマセンガ、¹⁾ 早晚歴史的ニナルモノデ、必ズ平壓開胸術ノ時代ガ來ル筈ノモノデアリマス。私ガ Thürich デ Sauerbruch ノ手術ヲ見タノガ1913年デアリマシタガ、手術中ニハ過壓裝置ヲ傍ニ置イテアルダケデ、ソレヲ使ツテハ居ナカツタ。私ハ此ノ有様ヲ視テ之レハ妙ナコトデアルト考ヘマシタ。當時ハマダ「インチキ」ト言フ言葉ヲ知リマセンデシタガ、コレハ實際「インチキ」ナノデアリマス。過壓ハ唯ダ最後ノ胸壁縫合ノ時ニダケ使用シテ胸腔内空氣ヲ膨脹肺ヲカリテ排除シタノミデアリマシタ。ソレデ歸學後研究ヲ進メテ今日デハ『過壓ハ無用ナルノミナラズ却ツテ有害ナリ』トノ結論ニ到達シタノデアリマス。京大外科以外世界中何處ノ國デモ斯ノ如キ主張ハシテ居ラスノデアリマスカラ、京大外科カラ提供シタ『平壓開胸術』トイフ術語ハ『過壓ハ無用ナルノミニ止ラズシテ却ツテ有害ナリ』トイフコトガ京大外科ノ主張デアルコトヲ認メタ上デ使用シテ頂キタイノデアリマス。』(註。現ニ佛ノ學者ノ如キハ『平壓開胸』ナル術語ヲ使用セズシテ、『異壓無シデモ開胸可能ナリ』ト陳述スルニ過ギズ。)

(此ノ演說中後藤教授降壇自席ヘ歸ル、會場騒然)

會長 (着席) 『他ニ御發言、御座イマセンケレバ60番!』

(此ノ時會場後方座席ヨリ「會長」,「會長」ト呼ブ聲アリ。會場騒然タルタメ會長ニ聞エヌ様子ナリ。會長取り上ゲズ。更ニ「會長發言ヲ許セ」,「勝手ナコトばかり言ツテ駄目ぢヤナイカ」,「佐藤ニ言ハセロ」,「佐藤先生シツカリ頼ミマス」等叫ブモノアリ。)

佐藤教授 (自席ニ起立) 『佐藤デスガ。』

會長 『ア、佐藤サンデスカ、良ク見エマセンデ失禮シマシタ。ドウゾ此處ヘオ出デ下サイ。』

(佐藤教授登壇)

佐藤教授 『私ハ態々此處ニ上ツテオ喋ベリスル筈ハ無イノデアリマスガ、タマタ私ノ名ガ出タ以上、又タ只今ハ何ダカ興奮サレテ面倒ノ様(會長ノ方ヲチラツト見ル)ニ見エマシタノデ、時間ガ切迫シテ居ルコトデアリマスガ、演壇デ喋言ラシテ頂キマス。私ハ獨乙ノ過壓開胸ヲヒイキシテ日本ノ鳥瀉サンニ反對スルト言フノデアリマセン。私ハ一昨日ノ講演デ Pneumotomie ノコトヲ話シマシタ。肺ノ手術モ色々アリマスガ私ハ切開ヲヤツタノデアリマス。此ノ時癒着ヲ突嗟ノ間ニ作ルタメニ工夫シナケレバナリマセン。其ノ時ニハ肺ヲウマク捕ヘテ胸壁ニ縫ヒ付ケレバ良イノデアリマスガ、空氣ガ肋膜腔ニ入り肺ガ萎縮スルト縫合出來ナイコトガアリマス。ソレデ私ハ幸ニ裝置ガアツタカラ、過壓ニ依リ肺ヲ膨脹サセテ置クト操作ガ仕易イ、此ノ際ニモ機械ガアルカラ使ツタマデデ、過壓ヲ用ヒテ手術後ニ大シタ害モ認メナカツタ。過壓裝置モアル場合ニハ便利ナコトモアル。』

會長 『ソノ他ニ御發言……? ゴザイマセンケレバ60番!』

1) Carl Franz 著, Lehrbuch der Kriegschirurgie. Berlin 1936 ニ於テモ現ニ過壓裝置ヲ原則的ニ主張シ、僅カニ變則的ニ過壓裝置ヲ使用セヌコトヲ認ルニ過ギズ。

60番演了。

會長 『御發言……？ ゴザイマセンケレバ宿題報告デアリマスガ、準備ノ爲ニ5分間休憩致シマス。』(時ニ午後4時5分)

5分間休憩

宿題報告

肺切除

報告者 阪大 小澤 凱 夫

(午後4時10分開始、同7時5分終了。此間會長ハ會長席ヲ去リ一般會員席ニ在リテ聽取。講演ガ終リニ近ツキタル頃ヨリ『報告終了後ト雖、會長ガ散會ヲ宣言スル以前ニ於テ猥リニ退場スルコトヲ御遠慮下サイ。』トノ揭示出ヅ。)

會長 (宿題報告中會員席ニ在リシガ終了後登壇)

『御禮ヲ申述ベマス。肺切除ニ關聯シテ非常ニ詳細ナル事實ヲ次カラ次ヘト展開下サイマシテ、吾々ハ多大ノ感銘ヲ以テ拜聽致シマシタ。小澤教授ニヨリ吾々外科ノ領域ハ大ヘン擴張セラレマシタ。茲ニ外科學會ノ名ニ於テ厚ク御禮ヲ申シ上ゲマス。

次ニ私ハ御演説ヲ拜聽シテ居リマシテ多少ノ感想ヲ得マシタノデ、ソレヲ述ベサセテ頂キマス。

平壓開胸術ガスクマデニ小澤教授ニヨリ完全ニ承認サレ、acceptieren サレ、私ハ涙ノ出ル程喜バンク存ジマス。私ハ茲デ此ノマ、死ナバ死ンデモ憾ハナイト思フ程デアリマス……(感激ノタメ語尾ハ震ヘテアリ)。

小澤教授ハ卓越セル手術者デアルノミナラズ、學術的ニ見識アル學者デアリマシテ、各所ニ優秀ナル報告ヲセラレ、外國ノ専門家ニ對シテ致命的ナル論評ヲ加ヘラレマシタコトハ、聽イテ居テモ非常ニ痛快デアリマス。殊ニ Asthma bronchiale ノ外科的療法ニ對シテ始メテ全體ヲ自ラノ親シイオ聲デ聽カシテ頂イテ驚嘆致シマシタ。

ソレカラ小澤教授ハ『過壓裝置無用論者デアルガ、有害論者デハナイ』ト述ベラレマシタ。

『有害』トイフ事ニハ2ツノ觀點ガアリマス。第1ニ過壓裝置ヲ用フル時ハ(詳シク言ヘバ過壓開胸術ヲ行フ時ハ)手術ノ進行ニ際シ有害デ、之ハ手術操作ヲ schaden (妨害)スル。之ハ獨リノ Fischer モ近頃ニナツテ言ツテキルコトデアリマス。第2ニハ手術後ニ於ケル生體ノ機能ヲ過壓ト平壓トニ就テ比較スルト、過壓ノ方ガ障碍ガ大デ、平壓ノ方ガ正常ニ近イ。

小澤教授ノ演説ノ中デ注意深イ聽衆ハ聽カレタデアリマセウガ、『肺ヲ膨脹サセル必要ガ……』ト言フ所カラ一轉シテ『膨脹サセテハナラヌ』ト言ハレマシタ。ソレハ即チ過壓デ肺ヲ膨脹サセルト手術操作ニ schädlich (有害的)デアルト言フコトデ、即チ Fischer モ述ベテキル意味ノ『有害』ト言フコトニナルノデアツテ、之ヲ直接小澤教授ヨリ承リ私ハ大變嬉シカツタノデアリマス。(笑聲アリ)

モウ一步進メテ今後吾々ノ教室業績ノコトヲモ御追試下サレタナラバ、『術後ノ機能ニ對シテモ亦タ過壓ハ有害デアル』ト言フ結論ニ達セラレル日ガ來ルコトト信ジマス。

私ハ4—5ヶ月ノ後ニ日本外科學界ノ第一線カラ退却スル者デアリマス。私ハ世界ノ最前線デ、外國ト對立シテ、今後日本ノ外科學界ヲ脊負ツテ立ツテ下サル人ハ誰々デアラウカト豫ネ々々考ヘテ居リマシタ。ソノ中ノ1人ハ確カニ小澤教授デアルト思ツテ居マス。(……笑聲……拍手……)之レハ本當デアリマス。今日ノ宿題報告ヲ拜聽シテ益々ソノ感ヲ深クシマシタ。

今後日本外科學界ヲ外國ニ對立シテ、國家的立場ヨリ脊負ツテ立タレル人ハ今回ノ宿題ノ報告者デアル石山博士、小澤博士ハ確カニソノ中ノ2名デアルト思ヒマス。ソノ外ニモ澤山アリマセウガ……。

諸君！前例ニ從ツテ、コノ凡テヲ傾倒セラレタル偉大ナル報告ニ對シテ小澤教授ニ向ヒ起立シテ敬意ヲ表シヨウデアリマセンカ。』……滿場起立、敬禮、拍手……(註。コレハ報告者ニ對スル禮儀デアツテ報告内容ヲ學術的ニ認メルトカ否トカノ問題トハ全ク關聯ノ無キモノデアル。)

小澤教授『私ノ至ラザル演説ニ對シ多分ニ……過分ノオ言葉ヲ頂キ穴ガアツトラハ入リタイ程デアリマス。私ハ平壓開胸術ノ創始者タル鳥瀉先生ノ會長デアラレル本學會ニ於テ、肺切除ノ宿題ヲ報告サセテ頂イタコトヲ非常ニ光榮ト存ジマス。

私ハ常ニコノ問題ニ對シテ、鳥瀉先生ノ説ニ學問的ニ贊成スルト共ニ學問的ニ感謝ヲシテ居ルモノデアリマス。私ハ鳥瀉先生ニ平壓開胸術ヲ祝福シテ握手ヲオ願ヒシタイト思ヒマス。シカシ握手ト言フコトハ目下ノ者ガ先ニオ願ヒ出來ルモノデアリマセンガ、學問ニ忠實デ在ラレル鳥瀉先生ノコトデスカラ、コノ御無禮ヲオ許シ下サルコトト思ヒマス。……滿場拍手……皆様ノ御贊同ヲ得マシタカラ……。』

小澤教授、鳥瀉會長ノ方ニ進ミ寄り固ク握手ヲ交ス。聽衆一同場モ破レンバカリニ拍手ヲ送ル(會衆中此處彼處ニ流涕滂沱、面ヲ上ゲ得ザル者アリ)。

會長：閉會ノ辭(午後7時20分)

『之デ豫定ノコトヲ終リ、日本外科學會ヨリ私ニ課セラレマシタ仕事ハ終リマシタ。殘サレマシタコトハ會長トシテ閉會ノ辭ヲ述ベルコトダケデアリマス。

茲デ從來ドノ様ナ研究ガ日本外科學界カラ出タカ總勘定シタイト思ヒマス。(此ノ時次ノ如キ表ガ會場正面ニ揭示セラル。)

近世日本外科產物

口蓋破裂	蓋節鏡	高木 憲治	創傷療法	傷樣突起炎	茂木 藏之助
腸閉塞	閉塞	鹽田 廣重	糞瘻	瘻病	木村 博
放射狀菌症	放射狀菌症	故齊 藤正意	象皮	脊椎(髓)外科	前田 和三郎
		都築 正男			

骨	折	前田 友助	肺 血 行 喘 息 ノ 學 說	}	小澤 凱夫
氣 管 撮 影	}	佐藤 清一郎	肺 切 除 (平 壓 開 胸)		
格 子 狀 肺			肺 虛 脫	}	石山 福二郎
創 傷 療 法	關口 蕃樹	胸 廓 運 動 描 寫			
野 兎 病	大原 八郎	膽	}	三宅 速	
腎 臟 外 科	杉村 七郎	胃 癌			
短 波	桂 重治	移 動 性 十 二 指 腸	}	後藤 七郎	
肺 結 核 ノ 外 科	}	故石 川 昇			胃 及 十 二 指 腸 潰 瘍 (<small>トリアプドミニス</small>)
結 腸 神 經 支 配			柳 壯 一	肝 臟 及 膽 道 ノ 生 理	赤岩 八郎
腹 內 臟 麻 醉	}	柳 壯 一	股 關 節 外 科	神中 正一	
喘 寒 冷 ノ 生 理			創 傷 治 療	甲 狀 腺 ノ 外 科	野口 雄三郎
創 傷 治 療	}	中田 瑞穂	腦 表 面 造 影	}	東 陽 一
膿 (球) ノ 研 究			特 發 脫 疽		
食 道 外 科	}	瀨尾 貞信	腸 閉 塞	小川 蕃	
後 縱 隔 竇 造 影			腸 閉 塞	三羽 兼義	
筋 肉 造 影	}	桐原 眞一	急 性 胰 臟 壞 死	大野良藏(追補)	
輸 胃 鏡 (活 動 寫 眞)			直 腸 狹 窄 (第 四 性 病)	}	本名 文任
神 經 及 血 管 撮 影	}	齋藤 眞	膿 胸		
腦 外 科			所 謂 骨 端 炎	皮 膚 (手 指) 瞬 間 消 毒	神原 亨
淋 巴 系 統 造 影	}	河石 九二夫	腸 線	宇山 俊三	
胃 壁 撮 影			「ヘルニア」根治術式	波多腰 正雄	
人 體 〓 線 活 動 寫 眞	}	望月 成人	伊 藤 ・ 大 澤 氏 手 術	}	伊藤 弘 大澤 達
乾 燥 及 保 存 血 輸 血			平 壓 開 胸 術		
腸 管 運 動	}	横田 浩吉	腎 大 網 膜 挿 入 手 術 (腎ノ「オメンチザチオン」)	}	鳥 潟 隆 三
胸 腔 內 結 核 肺 剝 離 (平 壓 開 胸)			「コクチゲン」ノ外科的應用		
脾 臟 外 科	故泉 伍 朗	直 腸 癌 合 併 手 術	故伊藤 隼三		
「ヒスタミン」	}	岩永 仁雄	食 道 及 噴 門 手 術	大澤 達	
腸 結 核 ノ 外 科					

(順序ニハ何等ノ意味無シ)

(會長表ヲ顧ミ、右手ヲ舉ゲ之ヲ指シテ)

是等ハ何レモ日本外科學界ノ產物デアリマス。輕イオ氣持デ物産館ノ中ヲ散歩スルツモリデ御覽下サイ。之ノ中ニ洩レテ居ルモノガアリマシタラ、他意アツテ落シタノデハアリマセンカラ、後日御手紙或ハ口頭デ言ツテ下サレバ、然ルベキモノハ物産ノ中ヘ入レマス。

一々讀ムト時間ガカ、リマスカラ、此ノ目錄ヲ御覽下サツテソノ實物ヲ想像シテ下サイ。此等ハ近世日本外科學界ノ產物ノ全貌デアリマスガ、大部分ハ外國ニヨツテ居ルモノデアツテ、日本外科學界固有ノモノハ少イノデアリマス。

日本外科學會ハ國家ノ斯ル進運ニ際シテ日本固有ノ國產品トシテノ研究報告ヲ出サネバナリマセン。例ヘバ日本ノ會員ヨリハ固有ノ消毒法ガ從來1ツモ出テ居ナイ。今回榊原氏ニヨリテ初メテソレラシイモノガ出サレタノデアリマス。又傷ヲ縫フト言ヘバ吾々ハ固有ノ絹糸ハ用フルガ、腸線ハ大部分外國製ノモノデ、只ダ宇山博士ガ以前カラ腸線ヲ創製シテ居ラレル。吾々ハ日本外科ノ爲ニ宇山氏ノ腸線ヲ用フベキモノト考ヘマス。ソレハ國民的自覺カラデアリマス。之ハ賣物ヲ廣告スル意味デハアリマセン。又タ外鼠蹊_Lヘルニア⁷ノ手術ニハ何ヲ大多數ノ人ハシテ居マスカ。ソレハ Bassini ノ手術デアリマス。例ヘバ支那ニ出カケテ文化的ニモ大イニ指導ヲ致スベキ時ニ、吾々が只 Bassini 氏手術ヨリ知ラヌ様デハヨロシク無イト思ヒマス。固有ノ國產品トシテハ餘程(20年)以前カラ行ハレテ居ル波多腰氏手術ガアリマス。以上ハ1,2ノ例デアリマスガ此際國民的自覺ヲ以テ少シ考ヘテ頂キタイト思フノデアリマス。(言々句々切々トシテ會衆ニ逼ル)

今度ノ總會ノ演説ニ就テ演題ヲ出サレタ中ニ、『何々ニ對スル cardiographische Untersuchung』トアルノヲ見テ私ハビツクリ致シマシタ。之ハ國民的自覺ヲ缺イテ居リマス。ソレデ出題者ニ無斷デ書き變ヘマシタ。此際日本外科學會員ハ國家的意識ヲ明瞭ニシテホシイト思ヒマス。

榊原博士ハ今度演題ヲ出サレタ際ニ、内容ガ敵國人ニ知レナイ方ガヨイトノオ考ヘカラ歐文抄録ヲ中止シタト附記サレマシタ。其ノ效果如何ハ別問題トシテ、私ハソノ意氣ノ壯ナルヲ多トシマス。國民的自覺ノ旺ナルヲ有難イト思ヒマス。

私ハ間モナク學界ノ第一線ヨリ引退スル者デアリマスガ、今後ノ外科學會員ハ國民的自覺ヲ新タニシテ、日本外科ノ產物、純國產品ノ獎勵ヲヤツテ欲シイノデアリマス。

獨逸外科學會デハ代々ノ會長ハ何ヲ言ツテキルカ。『獨逸外科學界ハ世界ノ外科ヲ「リード」シテ來タ。之ヲ維持セヨ』ト言ツテ居ル。開會ノ初メニ當リ私ハ之ヲ言ヒタクテモ、日本外科ノ現状デハ、ソレハ言ヘマセン。第一基礎カラ始メテカ、ラネバナリマセン。

私ノ觀ル所デハ今後ノ日本外科學ヲ脊負ツテ立ツベキ人が彼方此方ニ「ボツボツ」輩出シテ居リマスカラ、會員諸氏モ之ニカヲ協セテ國民的自覺ノ上ニ立ツ『新シイ日本外科』ヲ築キ上ゲル爲ニ努力シテ頂キ度イデアリマス。之ヲ以テ閉會ノ辭ト致シマス。』(拍手……會長降壇)

三宅名譽會員 (自席=起立)『僭越ナガラ日本外科學會員ヲ代表シテ、烏瀉會長ニ一言御挨拶申上マス。烏瀉會長ハ3日間ニ互ツテ洵ニ巧妙ナル御手腕ニヨリ會ヲ進メラレ、ソノ結果ハ豫想以上ニ盛會デアリマシタ。之ハ全く烏瀉會長ノ御手腕ニヨルモノデ感謝ニ堪ヘマセン。私ハ會員諸君ト共ニ會長ニ感謝シ、敬意ヲ表シタイ。起立、拍手ヲ願ヒマス。』

……満場起立、拍手……

會長『諸君有難ウ御座イマス。恒例ニヨリ日本外科學會ノ萬歳ヲ三唱シタイデス。閉會ノ辭ニ申述ベタコトヲ念頭ニ置イテ三唱シテ頂キタイデアリマス。』

會長『日本外科學會萬歳』

一同『萬歳、萬歳、萬歳』……拍手……

閉會 (時=4月4日午後7時40分)

附記 日本外科學會總會庶務會計報告及ビ決定事項

4月3日午後總會演說第42番終了後、宿題報告ニ先ダチ行ハル。

會長『コレヨリ本會ノ庶務報告ヲ致シマス。

(1) 昨年度入會者 ……名、退會者 ……名、死亡者 32名、現在會員數 ……名。

死亡者ノ氏名ハ(會長32名ノ氏名ヲ一々讀ミ上ゲル)、以上32名デアリマス。敬弔ノ意ヲ表スルタメ御起立ヲ願ヒマス。(一同起立、黙禱)

(2) 次回開會地ハ評議員會デハ東京ト言フコトニ決定致シマシタ。東京デ宜シウ御座居マスカ。(満場拍手)

ソレデハ東京ニ決定致シマシタ。

(3) 次回會長候補ハ投票數ノ多イ順カラ、

1) 瀨尾教授 2) 大槻教授

ノ兩氏デアリマスガ、從來ノ慣例カラ言ヒマスト、票數ノ多イ人ガ會長トナラレルコトニナツテ居リマス。ソレニ依リマスト、瀨尾教授ガ會長トナラレルコトニナリマスガ御贊同下サイマスカ。(満場拍手)

之レモ承認サレマシタ。

(4) 次回ノ宿題ノ件デアリマスガ、國家ノ現状ニ鑑ミ、國民精神總動員ト言フコトガ度々言ハレテ居リマスシ、文部省カラモ數回通達ガアリマシタ。故ニ日本外科學會モ之レト無關係ニ宿題ヲ決メルヨリモ、陸海軍ノ協力ヲ願フコトニ致シマシタ。私ハ之レヲ1人デ考ヘツイタノデアリマスガ評議員會ニハカリマシテ、

1) 失血救急 2) 創傷感染

ノ2ツガ選バレマシタ。コレニハ擔當者ヲ別ニ設ケズニ、會員各自御研究ノ上、次回ニ御發表ヲ願フコトニ致シマシタ。

3) 所謂骨端炎

コレハ名古屋醫大名倉教授ニ御願ヒスルコトニ致シマシタ。

4) 陳舊性膿胸(結核性ヲモ含ム)

コレハ京大青柳講師ニオ願ヒスルコトニ致シマシタ。

以上ガ宿題ニ關係シタコトデアリマスガ、ソレ以外ニ現在我ガ外科学會ニ於テハ、未ダ1回モ毒瓦斯ニ關スル記載及ビ講演ガアリマセン。外科總論ニモ之レガ取り扱ハレテ居リマセンカラ、明年ハ毒「ガス」ニ關スル特別講演ヲオ願ヒスルコトニ致シマシタ。之レハ海軍々醫大佐福井信立氏ガ引キ受ケテ下サルコトニナツテ居マス。但シ海軍ノ當局者ニ諒解ヲ得ネバナラス、ソレハ時日ヲ要スルガ、ソレデ差支ヘナケレバ御引受ケテ下サルトノ事デアリマス。之レハ特別講演トシテ御願スルコトニ致シマシタ。

外科学會々員ニハ特別講演ハ許サレテ居リマセンガ、福井氏ハ會員デアリマセンカラ、特別講演ヲオ願ヒ出來ルノデアリマシテ、之レハ評議員會ノ決定デアリマス。御承認ヲ得レバ幸デアリマス。(一同拍手)

ソレデハ御承認ヲ得タコトト致シマス。

次回會長ニ瀨尾教授ヲ頂クコトニ會員諸君ハ御賛同下サイマシタガ、瀨尾教授ガ果シテ御引受ケテ下サイマスカ否カ只今承リマス。』

『瀨尾教授オ出デニナリマセンカ』ト呼ビナガラ會長降壇シ會員座席ノ間ヲ尋ネル。瀨尾教授自席ヨリ演壇下ヘ進ミ出ヅ。會長瀨尾氏ニ近寄り)

會長 『瀨尾教授御引受ケテ下サイマスカ、會長ヨリオ願ヒ致シマス。』

(瀨尾教授低聲ニテ承諾ノ意ヲ會長ニ傳フ。會長會衆ニ向ヒ)

會長 『瀨尾教授ハ幸ヒニ御引受ケテ下サイマシタ。オ引受ケテ下サイマシタニ就テ諸君ニ御挨拶ガ御座イマス。』(會長、瀨尾教授ヲ招ジテ登壇)

瀨尾教授 『次回ノ日本外科学會々長ニ私ノ如キモノヲ御推舉下サイマシテ私トシテハ非常ニ光榮ニ存ズル次第デ御座イマス。私ハ元來カ、ル重任ヲ果ス上ニ於テ或ハ不適當デハナイカト思ヒマスガ、幸ニ皆様ノ御支援ノモトニ一旦引キ受ケマシタ上ハ最善ノ努力ヲ盡シテ、皆様ノ御期待ニ報イン覺悟デゴザイマス。簡單デアリマスガ、御挨拶ニ代ヘマス。』(一同拍手、瀨尾氏降壇)

會長 『後戻リニナリマスガ、創傷感染ノ中ニハ色々ノ問題ガ含マレテ居リマス。例ヘバ感染ヲ如何ニシテ豫防スルカ、如何ニシテ治療スルカ、切斷スルニハドウイウ様ニスレバ四肢ノ機能ヲ十分發揮シ得ルカ、或ハ綳帶材料ニ對シテハドウスルカ、之等ハソノ1例デアリマスガ、『創傷感染』ナル題目ノ下デ諸君ガ思ヒ付カレタ一切ノ事ハドンナコトデモ御發表ニナツテ宜シイデス。

(5) 評議員會デ『總會記事』ノ編輯方法ヲ改良スルコトニナリマシタ。演説ノ抄録ハ從來ヨ

リモ少シ簡單デ宜シ。併シ出來ルダケ具體的ニ表ハシテ置イテホシ。……『コウイウコトヲ言ハント欲ス』ト言フヤウナ事デナク……。

之レヲ小冊子ニ仕立テテ、他ノ學會デモヤツテ居ルヤウニシタイモノデアリマス。演説ガ濟メバ其ノ内容ヲ忠實ニ書イタ原稿ヲ幹事ニ渡シテ頂キタイ。演説ノ中ニ報告サレナカツタコトガ誤ツテ入ツテ居レバ幹事ハ之レヲ削除致シマス。『獨逸ノ外科學會記事』ヲ讀ムト討論者ノ報告、演説者ノ仕方等手ニ取ルヤウニヨク書イデアリマスガ、アノ様ナモノニシタイト言フ理想デアリマス。會員諸君モ此ノ事ヲ實行シテ頂キタイ。之レハ評議員會デ決メタダケデ、更メテ會員諸君ニ贊否ヲ問ハナクテモヨイ事項デ、單ニ報告ダケデヨロシイトノコトデアリマス。

(6) 日本外科學會雜誌ノ原稿ヲ發送シテ、掲載スルマデニハ1年モ待タネバナラヌ場合ガアリマスカラ、オ急ギノ方ハ一定ノ費用ヲ出シテ頂ケバ特別掲載ノ形デ順番ニ拘ラズ急ニ發表シ得ルコトトナリマシタ。

之レデ庶務報告ヲ終リマシタ。

會計報告ハ午前中ニ貼リ出シテオキマシタガ、午後1時マデニ御不審ノ申入レガナカツタノデ皆御認メノコトト思ヒマスガ、御承認下サイマスカ。(一同拍手)

ソレデハ御承認ノコトト確定致シマス。』

會長 『特ニオ聴キ願ヒタイノハ、名譽會員ノ佐藤三吉博士ハ今年81歳ニナラレテ、我々ノ見ル所デハ世ニ處シテ身ヲ持スルコト堅固デ、一代ノ師表トシテ我々一同ガ景仰措ク能ハザル所デアリマス。會員諸氏モ御同感ノコトト思ヒマス。學會ノ規則ニハアリマセンガ、私ハ此ノ際名譽會長ニナツテ頂キタイト思ヒマシタノデ、關係ノ深イ鹽田名譽會員、都築教授、大槻教授ニ御相談致シマシタ所思ヒツイタ日ガ吉日デアルカラ、早速會員諸氏ニハカツタラヨカラウト言フコトデアリマシタ。

嘗テ獨逸デモカウイウ例ガアリマス。Anschützガ會長ノ時、Körteヲ Ehren-Praesidentトシテ推戴シタイト會衆ニハカリ、會衆ハ一言ノ反對モナクシテ一齊ニ贊同致シマシタ。私ハ今回モソノ例ニ倣ツテサウアリタイト思ヒマス。之レハ風教上ニモ關スルコトデアリマスカラ、御贊同ヲ願ヒマス。(一同拍手)

有難ウゴザイマス。ソレデハ佐藤名譽會員ニ此ノ由ヲオ傳ヘシテ、我々ノ誠意ヲオ受ケ下サルカ否カヲオ聞キ致シマス。御承諾下サイマシタラ、後デ誌上デ發表致シマス。(後記。佐藤名譽會員ハ名譽會長ヲ受諾セラレタリ。)

コレデ總會ノ庶務會計報告及ビ議事ヲ終リマス。』